

令和元年度

事業所名： あお空グループホーム赤前

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390200178		
法人名	有限会社介護施設あお空		
事業所名	あお空グループホーム赤前		
所在地	〒027-0202 岩手県宮古市赤前第4地割83番地		
自己評価作成日	年月日	評価結果市町村受理日	令和1年9月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・火災、台風、地震等の災害時、すみやかに対応できるよう毎月避難訓練を実施しています。・地域の方々とのふれあいを大切にしています。慰問の際は、来て下さった方々や、入居者様みんなで笑顔になれるよう楽しんでます。・週に2,3回はドライブに出掛け、遠出の時は、外食をされ入居者様、職員は気分転換を図っています。</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kajikensaku.mhw.go.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan:true&amp;JiyosyoCd=0390200178-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">http://www.kajikensaku.mhw.go.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan:true&amp;JiyosyoCd=0390200178-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、震災後の復旧・整備が進み、周辺に保育園、県立高校、事業所などがある森林や畑に囲まれた住宅地に立地している。高台にある保育園と災害時の協定書を結び地域の避難訓練に職員を派遣するとともに、毎月、内容を変えて避難訓練を実施するなど、災害対策に万全を期している。また、保育園児の訪問による遊戯、歌、肩たたきなどの触れ合いのほか、歌謡、踊りのボランティアの受け入れ、敬老会へ近所の方を案内するなど、地域との交流に力を入れている。運営にあたっては、職員アンケートによる自己評価や職員会議での話し合いを通じ、職員間のコミュニケーションのもと、事業計画の立案、業務改善提案などを取り上げ、例えば、備品の整備、週3回のミニドライブでの外出、利用者へのゲームの創出や利用者目線での語りかけなど、介護サービスの充実に取り組んでいる。</p>
---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和1年7月30日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

令和元年度

事業所名： あお空グループホーム赤前

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティングでは、職員全員の意識向上を図るため、理念唱和を行い、理念に沿うよう努めています。又、気付いたことを話し合い業務につなげています。	法人の理念や事業所の理念を、職員会議や申し送りなどを通じて職員間で共有し、日々の業務の中で、注意し合い、利用者の心情を大切にサービスを提供している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	二ヵ月に1回の慰問の案内は7年以上続いています。地域の行事や避難訓練、町内会議にも参加し交流はできる範囲で行っています。	町内会の会議に参加し、市の広報も配布されている。地域の避難訓練へ参加しているほか、保育園やボランティアの受け入れや敬老会へ住民に案内するなど、地域との連携を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々との交流では、入居者様に声をかけていただいたり歌や踊りを楽しんでいます。そういう機会にホームでの生活や対応をみていただいています。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方々には、開所から9年間運営推進会議に参加頂き、地域とホームのかけ橋になっていただいています。地区駐在所の方の参加により地域、ホームの情報交換もできています。	市の担当者、地域の有識者、保育園の理事長、家族代表を委員とし、感染症予防、避難訓練の方法、園児や学童の触れあいなどへの助言、提案に加え、ゲストとして出席の警察の駐在署員かの防犯や安全の指導を得て、日頃の業務に反映させている。	今後ゲストとして出席予定している防災士による話など、運営推進会議の検討課題や主要テーマを予め定め、より多くの助言や提言を得て、業務へ反映されるよう期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	集団指導、研修の参加、転倒時の報告を行った後、今後の対応について相談をすることもありません。退院後、受け入れ困難な方の相談もおこなっています。	運営推進委員として市の担当者から、感染症対策などの助言を得ているほか、集団指導への参加、要介護認定申請手続きの指導を得ている。災害ラジオによる情報のほか、市設置の事業所のボックス経由で各種情報を入手している。また地域包括支援センターからは、入居状況の紹介などもある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は防犯の為、19時～5時までに行っている。外部研修の参加、内部研修を定期的におこないつつながら利用者の状態を常に共有して身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	職員による身体拘束防止の委員会を開催し、課題を検討し職員間で共有している。また、法人役員による虐待防止についての職員への聞き取りを通じ、趣旨の徹底を図っている。特に、スピーチロックについては、気付いた時に職員間で声をかけ合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	内部研修ではホーム内での支援の振り返りを行い、虐待防止に努めています。業務の協力体制や就労時間を守り、休み希望も取り入れストレスを軽減しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護を活用している入居者様は1名いる。主に管理者が対応している。今後も外部研修等で学んでいきたいと思ひます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、料金等の変更時には、口頭、文書で理解を得、了承していただひています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部評価の家族アンケート、来所時、電話等で意見、要望を聞くことができます。入居者様との普段の会話から聞くこともあり参考にしながら支援を行っています。	家族の方が面会に来た際に近況報告も兼ねながら意見要望を聴いている。来られない家族には電話で直接説明している。食材の下ごしらえや洗濯ものたたみを自分でやりたいとする利用者の思いを汲んで、職員と一緒にいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	報告、連絡、相談、意見をききながら必要時、本社へ報告や各申請を行っています。	本社も含めて個人面談を実施している。管理者に直接話してくることが多い。また、職員へのアンケートを実施し、業務の改善、研修への参加、資格の取得、勤務日程などに対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務実績等把握した上での給与水準への反映や資格取得の助成、資格合格者への祝い金を実施しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症実践者研修2名(7・9月)介護職員初任者研修1名、(6月～10月)受講。勤務変更等も職員の協力で出来ています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の県、沿岸地区の会議、研修に参加し情報を得、研修内容は、内部研修で参加者中心に共有を図るよう取り組んでいます。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前情報は可能な限り本人、家族、サービス関係者に得よう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	キーパーソンとなる家族にはホームの役割を伝え、十分な説明を行いトラブル等ないよう事前に確認を行い、周知して頂くよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	慣れない環境で不安にならないよう今までの日常生活を可能な限り続けられるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護、援助だけでなく、それぞれ個々に応じたお手伝いをして頂いています。共同生活の中でお互いに協力しあい良い関係が築けるよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	運営推進会議への参加依頼、通院の付き添い、家族さんと共に協力しあい支援を行っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的な家族の面会を協力をお願いしています。遠方の方には、電話で話ができる機会を作り支援に努めています。	施設の広報紙まごころ便を2か月に一度家族へ送付している。家族等の来訪者は少なくなっているが、通院時に家族の付添で、帰りに実家の近くの馴染みの食堂で食事をしてくる方もいる。馴染みの場所へ連れて行きたいが、震災で無くなっている場合が多い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性を考慮した座る位置の確保により手仕事を一緒に行ったりおしゃべりを楽しまれています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後は殆ど相談等はないが、必要時にはできることを行うよう努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者さんとの会話の中から生活環境や昔の話を聞いたり、家族さんからの話を参考にしながら暮らしの把握に努めています。	居室担当による利用者の意向の把握に加え、職員全員で利用者ごとの情報を共有し、朝一番の声掛け、利用者の声出しを促している。利用者の目線で接し、真情を大切に、世間話やお手伝いの機会を利用して要望を伺い、対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様や家族から得た情報やその他からの情報も参考、手伝いや会話の際に生かし支援につとめています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の日課や言動、申し送り、ケース記録等で状態を把握しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状を把握して、担当職員や他の職員とカンファレンスで検討を行っています。本人や家族に確認、報告行っても「お任せします」「分からない」との返事をいただくことがあります。	長期1年、短期6か月ごとに計画を見直している。月1回、職員によるカンファレンスや計画作成担当者によるモニタリングを行い、家族の意向を伺っている。遠方の家族には電話等で確認し、了承を得ている。投薬の変更などの医師の指示や、兼務の看護師の助言も計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録、申し送りの記録の確認や定期的に行うカンファレンスで検討を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日用品、衣類の購入、福祉用具の検討・提案、緊急時の受診付き添い(24時間)、旬の食べ物や行事食の提供等、家族ができないところを支援しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	慰問の方々や、近所の方々との交流で楽しい時間を過ごしている。保育園や小学校の子供達との交流を継続しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時の際、家族対応2名。家族には、身体面や気付いたことを伝え医師に報告していただいています。服薬困難な入居者の薬を医師、薬剤師と連携をとり薬を処方して頂き服薬できています。	かかりつけ医の受診は、家族同伴が2名、家族の要請による職員同行が6名となっている。毎日記録している血圧手帳を持参するほか、必要に応じてメモを手渡している。職員同行の家族へは受診後の状況を報告している。歯科も同様に対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常、状態の観察を通し気づいたことがあれば看護師に報告をおこなっている。状態観察か受診の指示があれば家族に報告し支援を行っています。看護師来所時には、普段の体調の様子や受診状況を書面等で報告おこなっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	連携室相談員と情報交換を行い、医師や看護師の確認や情報も連携室と対応している。退院後の受け入れ可能かどうかの話合いでは家族、病院関係者と相談できるよう努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に説明を行うことで理解を得ている。家族の協力が必要であり対応できる範囲で支援に努めています。	入居時に家族等に、重度化した場合の対応について、指針により説明し同意を得ている。終末期になった場合、改めて家族の意向を伺い、医療機関等に移送している。事業所での看取り経験はないが、終末期のケアは行っている。緊急の場合は、兼務の看護師とともに対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	状態の観察や処置等は毎日行っている。緊急時の対応については救急車要請、職員が付き添い対応。緊急時マニュアルを活用し実践に繋がるよう努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は毎月1回実施している。高台にある保育園に一時避難を行うこともあり、「災害時における避難所等の施設利用等に関する協定書」とりかかわっています。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自分の思い通りにやりたい方には否定せず、プライドの高い方には相手を敬い声掛け、対応に気をつけています。	個人情報、ファイル保存のほか、パソコンに入力し、パスワードで管理している。機関紙への写真掲載は、入居時に了承を得ている。利用者への話しかけやお手伝いの誘いなど、利用者の経験と知識を活かすよう努めている。何気ない言動で普段は何でもないのに急に不穏になる方もおり、言葉遣いには注意しているほか、失禁時は特に他者への配慮、気遣いを大切に対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	命令口調ではなく選択肢をいくつか用意し、なるべく本人思いの意思決定ができるよう心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ会話を大切し、歌やドライブ、散歩、レクリエーション、昼寝等行っている。参加の強制はしないようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性入居者は電動髭そりを手渡し髭そりを行っています。女性入居者はブラシを使いそれぞれ整髪を行っています。クリームをつけられる方もいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食やおやつ作りは、入居者が中心となり調理を行い、自ら調理した物を食べ喜ばれている。又、テーブル拭きもお手伝いいただいています。	ご飯とみそ汁はホームで調理専門員や職員が利用者の手伝いを得て作り、おかずは業者が配達してくれる。おやつや季節の料理(トン汁、ニシメ)、地域の伝統食(冷やし善哉、ひつまみ)は、外注とは別に提供している。誕生会のおやつ作りは利用者が楽しみにしており、ケーキ、団子等を出来る人がそれぞれ役割分担して楽しく作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お粥、副食の刻みの方への観察と支援を行っています。チェック表にて水分摂取量を確認し提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯の状態観察、痛みや汚れの確認・支援を行っています。洗浄剤を使い義歯の清潔保持を行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表を確認しながら声掛け、誘導をおこなっています。皮膚状態の確認・ズボンの上げ下げ等支援をしています。朝食後に便失禁がある方は、8時台に声掛け、誘導を行いトイレで排便できるようにしています。	一人ごとの排泄チェック表により、傾向を把握し、仕草や態度を観て案内、誘導している。全員がハビリパンツとパットを併用し、ズボンの上げ下げなどの介助を行っている。夜間のポータブルトイレは1名が使用し、夜間対応として、6名に赤外線センサーを配置している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者の状態に合わせ乳製品や下剤で様子を見て便秘の解消に努めています。生活動作の中で歩くことを意識しながら支援を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調や意思を尊重し拒否が見られる時は声掛けを工夫したり、職員、時間をかえて入浴していただいています。男性入居者2名の介助は男性職員が行っています。(介助困難の為)	3日に1回、午後に入浴している。特に、長期にわたり入浴を嫌う方はなく、異性介助にも問題ない。車椅子利用者には、男性職員2名が対応し、全員が浴槽を利用している。入浴時は歌や昔話で、楽しいひと時になっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動等を工夫、起きている時間を増やし昼夜逆転をしないよう努めています。入床前は室温調整し、夜間気持ち良く眠れるよう努めています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容等は受診記録、申し送りノートで情報を共有しています。入居者の変化に気づき抗精神薬を終了したケースがあります。(家族、医師に確認)		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の状態に応じてお手伝いの場を提供しています。おやつを作って食べたり、慰問や保育園・小学校の子供達との交流を楽しみにしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	桜や紅葉の時期は少し遠方へドライブに出掛け、外食を楽しんでいただき、気分転換していただけよう努めています。受診時は、家族と一緒に外食される方もいます。	天気の良い日は、午前中に周辺の散歩に出かけたり、週2、3回、近くの観光地などに数名乗車によるミニドライブに出かけている。遠方へのドライブは、年間計画により、花見、紅葉見学、道の駅での外食などである。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分での管理はむずかしい為、預かり金はホームで管理しています。本人の希望があれば買い物に出掛け、時々、近くの自販機でジュースを購入する方もいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	その時々、家族へ連絡したい時、家族から連絡があった時に本人にかかわることで対応しています。写真を送って下さる家族もいます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間に限らず職員が清掃し清潔を保っています。又、季節の工作を入居者さんと作り飾っています。窓を開け風をいれることで換気ができ、気持ち良さも感じていただいています。	広々としたロビーに食事用テーブルが配置され、空きスペースでは、園児などの訪問時に遊戯が披露される。そのほか、多目的の部屋があり、ソファが配置され、畳使用も可能になっている。園児の作品や利用者の手作りの作品のほか、季節の飾りが配置されている。温度や空調は大型のエアコンや換気扇で管理され、利用者はテレビやカラオケで楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食席からソファーに移られ、おやつを食べたり、昼寝をしたり、職員とおしゃべりをするもあります。なにもせず静かに過ごす入居者様もいます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の写真やプレゼントを飾ったりしています。時計や本人が大事にしているバックを枕元に置いている入居者様もいます。	ベッドや備え付けのクローゼット、ナースコールが設置されている。衣装ケースや時計、鏡、化粧品、家族写真など、それぞれの思いでの品物などが持ち込まれている。エアコンで温度が管理され、快適な居室環境となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に表札を設け居室がわかるように工夫しています。トイレがわかるように看板を貼ったり、一人ひとりの状態に合わせて歩行器を使用しています。		